

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	コミュニケーション能力	異なる専門家・意見を持った人に対しても、きちんと自分の主張を言葉で（文書で）伝え、理解してもらうことができる。	0と1の間	異なる専門家・意見を持った人に対しても、その人の主張を聞いて（読んで）理解することができる。	1と2の間	異なる専門・意見を持った人の主張も、その背景(コンテキスト)を理解し、時間を掛けて説得・納得し、妥協点を見出すことができる。	2と3の間	さきの能力をどんな環境でも発揮できる。
b	国際性・語学力	多様な価値観と異文化の存在に対する理解がある。	0と1の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を持ちたり言葉で表現したりすることができる。	1と2の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を他国の人への確に伝えることができる。	2と3の間	多様な価値観と異文化を包括的に理解し、世界の様々な環境で順応し活動できる。
c	教養学力	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得している。	0と1の間	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得し、そこで直面する問題を理解している。	1と2の間	自然・人間・社会に関して直面する問題に対して自身の考えを展開することができる。	2と3の間	自然・人間・社会に関して直面する問題をよく理解し、修得した基礎知識を組み合わせることで総合的にものを考え、自身の立場を論じられる。
d	基礎学力	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を理解している。	0と1の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎学力を蓄え、専門能力獲得の土台が十分にできている。
e	専門学力	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を理解している。	0と1の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を使って経営上の諸問題を解いたり、自由に議論したりすることができる。
f	問題発見・解決力	自ら経営の諸問題を発見できる。	0と1の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、重要なポイントを抽出することができる。	1と2の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、何らかの方策を提案したり、解析をすることができる。	2と3の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、的確なモデルや解析手法を使って、分析を行い、問題の解明や解決ができる。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	コミュニケーション能力	異なる専門家・意見を持った人に対しても、きちんと自分の主張を言葉で（文書で）伝え、理解してもらうことができる。	0と1の間	異なる専門家・意見を持った人に対しても、その人の主張を聞いて（読んで）理解することができる。	1と2の間	異なる専門・意見を持った人の主張も、その背景(コンテキスト)を理解し、時間を掛けて説得・納得し、妥協点を見出すことができる。	2と3の間	さきの能力をどんな環境でも発揮できる。
b	国際性（語学力も含む）	多様な価値観と異文化の存在に対する理解がある。	0と1の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を持った言葉で表現したりすることができる。	1と2の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を他国の人への確に伝えることができる。	2と3の間	多様な価値観と異文化を包括的に理解し、世界の様々な環境で順応し活動できる。
c	幅広い教養	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得している。	0と1の間	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得し、そこで直面する問題を理解している。	1と2の間	自然・人間・社会に関して直面する問題に対して自身の考えを展開することができる。	2と3の間	自然・人間・社会に関して直面する問題をよく理解し、修得した基礎知識を組み合わせることで総合的にものを考え、自身の立場を論じられる。
d	専門基礎学力	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を理解している。	0と1の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎知識を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	経営学の各基礎分野・専門分野の基礎学力を蓄え、専門能力獲得の土台が十分にできている。
e	専門学力（知識）	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を理解している。	0と1の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	経営学の各専門分野の専門知識(理論、技法など)を使って経営上の諸問題を解いたり、自由に議論したりすることができる。
f	専門学力（問題発見・解決力）	自ら経営の諸問題を発見できる。	0と1の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、重要なポイントを抽出することができる。	1と2の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、何らかの方策を提案したり、解析をすることができる。	2と3の間	自ら発見した経営の諸問題に対し、的確なモデルや解析手法を使って、分析を行い、問題の解明や解決ができる。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	コミュニケーション能力	異なる専門家・意見を持った人に対しても、きちんと自分の主張を言葉で（文書で）伝え、理解してもらうことができる。	0と1の間	異なる専門家・意見を持った人に対しても、その人の主張を聞いて（読んで）理解することができる。	1と2の間	異なる専門・意見を持った人の主張も、その背景(コンテキスト)を理解し、時間を掛けて説得・納得し、妥協点を見出すことができる。	2と3の間	さきの能力をどんな環境でも発揮できる。
b	国際性・語学力	多様な価値観と異文化の存在に対する理解がある。	0と1の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を持った言葉で表現したりすることができる。	1と2の間	多様な価値観と異文化に対して理解し、自身の考えや意見を他国の人への確に伝えることができる。	2と3の間	多様な価値観と異文化を包括的に理解し、世界の様々な環境で順応し活動できる。
c	教養学力	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得している。	0と1の間	自然・人間・社会に関する基礎知識を修得し、そこで直面する問題を理解している。	1と2の間	自然・人間・社会に関して直面する問題に対して自身の考えを展開することができる。	2と3の間	自然・人間・社会に関して直面する問題をよく理解し、修得した基礎知識を組み合わせることで総合的にものを考え、自身の立場を論じられる。
d	基礎学力	国際デザイン経営に関わる各基礎分野・専門分野の基礎知識を理解している。	0と1の間	国際デザイン経営に関わる各基礎分野・専門分野の基礎知識を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	国際デザイン経営に関わる各基礎分野・専門分野の基礎知識を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	国際デザイン経営に関わる各基礎分野・専門分野の基礎学力を蓄え、専門能力獲得の土台が十分にできている。
e	専門学力	国際デザイン経営に関わる各専門分野の専門知識(理論、技法など)を理解している。	0と1の間	国際デザイン経営に関わる各専門分野の専門知識(理論、技法など)を体系的に関連付け、理解している。	1と2の間	国際デザイン経営に関わる各専門分野の専門知識(理論、技法など)を組み合わせ、演習問題などに対処できる。	2と3の間	国際デザイン経営に関わる各専門分野の専門知識(理論、技法など)を使って経営上の諸問題を解いたり、自由に議論したりすることができる。
f	創造性と提案力（または創造的解決力）	デザイン、創造性、デジタル技術についての自らの知識に基づいて課題を感知できる。	0と1の間	デザイン、創造性、デジタル技術についての自らの知識に基づいて感知した課題を分析できる。	1と2の間	デザイン、創造性、デジタル技術についての自らの知識を使いながら、感知した課題について多様な観点からの分析や解決への試案提案ができる。	2と3の間	デザイン、創造性、デジタル技術の知識を使って社会やビジネスの課題を自由に議論して、分析や解決案の提案につなげることができる。